

いま「現在」に感じる

古の鯉場

町内に残る歴史的建造物を観る

町内には、明治から昭和初期のニシン盛漁期に建てられた歴史的価値を持つ建造物が多く残されています。当時の文化や生活習慣を感じることができるこれらの建造物を保存伝承することは、積丹町がニシン漁で栄えた歴史を後世に残すうえで大変重要なことです。現在も町内に残る歴史的建造物をどのように活用するか、皆さんと一緒に考える必要があります。

専門機関による調査を実施 町内に残る歴史的建造物

北海道職業能力開発大学校（小樽市）による美国町内の歴史的建造物に関する調査がまとめられ、5月26日に総合文化センターで調査結果報告が行われました。

昨年7月から始められた今回の調査は、同大学校建築科駒木定正准教授と学生6人により鯉場当時から町内に残る建造物の外観調査や聞き取り調査など合

計42棟で行われました。

報告書には、比較的規模の大きい番屋や住宅に施された華美な装飾からは、ニシン漁盛漁期の賑わいが推察されること、町内には石蔵が多く残っていることなどを特徴としています。

町内に残る石蔵の多くは、木で骨組をつくり、そこに石材を張り付ける「木骨石造」という手法で造られています。石材のみを組み合わせてつくる石蔵と比べ、早く建てることのできる分、比較的安価にできるとい



▲竹谷邸（美国町）

明治4年以前に建てられ、町内に残るもっとも古い番屋と推測される。旧ヤマシメ福井邸は、これを参考に建築されたと推測される。



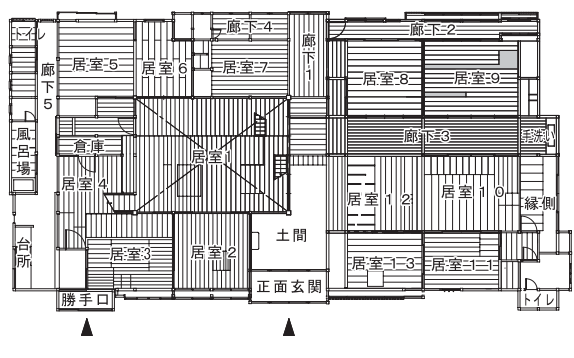
▼土井邸（美国町）



▲明治36年頃建設された。出入口には屋根を支えるための持ち送りに華美な装飾が施されている。

「旧ヤマシメ福井邸」の特徴

▶北海道職業能力開発大学校
建築科学生製図（1階平面図）



たくさんの居室

ニシン漁の盛漁期には60から90人もの漁夫が寝泊まりするためたくさんの居室が設けられている。

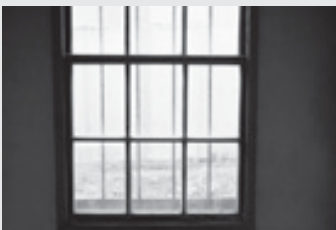
漁夫は、正面玄関を使わず、西側の勝手口から出入りしていたと考えられている。



▲床の間、違い棚

格式の高い居室

漁夫との生活空間を分け、親方の居室のひとつには、床の間や違い棚を設け欄間には細かな装飾が施されるなど、格式あるつくりとなっている。



▲上げ下げ窓

西洋デザインの取り入れ

日本伝統的な番屋建築の中に、洋風建築で用いる上げ下げ窓を設け、外観のデザイン性を重視している。

旧ヤマシメ福井邸
優れたデザインへのこだわり

報告書には、美国町内に多く残るニシン場当時の建造物のうち、特に特徴的な建造物のひとつとして旧ヤマシメ福井邸が挙

利点から、地域に普及したと推測されるものです。駒木准教授は「これだけの歴史的建造物が集中して残る地域はめずらしい」と話します。

げられています。大正初期に建てられたとされるこの番屋には、たくさんの漁夫が、ひとつ屋根の下で寝泊りをしたことから、土間を境に漁夫と親方の生活空間を分けていることや、親方の目が届きやすいよう2階を吹き抜けにするなど、当時の生活が建物に反映されています。

また、親方が生活した居室のひとつには、床の間や違い棚を設けたほか、欄間には細かな装飾が施され格式のあるつくりとなっています。日本の伝統的な座敷が造られている一方で、西洋建築で使われる上げ下げ窓が設けられ、和洋折衷のデザインになっていることも特徴的といわれています。

代表的な番屋建築の手で建てられたこの番屋は、外観はデザインに優れ、内観はおもむきがめたものと評価されています。

北海道職業能力開発大学校
建築科

駒木定正 准教授
プロフィール



- 1974年 近畿大学工学部建築学科卒業
- 1983年 北海道小樽工業高等学校建築科勤務
- 1990年 北海道職業能力開発大学校勤務
- 1999年 博士(工学)学位取得(北海道大学)
- 2001年 北海道職業能力開発大学校准教授
- 現在に至る

主な著書

- 「小樽の建築探訪」
(北海道新聞・函館、札幌他同シリーズ)
- 「北海道の開拓と建築」(第一法規)
- 「建物の見方・しらべ方近代産業遺産」(ぎょうせい)

他

▼井端邸（美国町）



▲かつての番屋で、のちに魚介仲買商を営んでいた。出入口横の出窓を支える持ち送りは、華やかな装飾が施されている。

活用を活性化のきっかけに
旧ヤマシメ福井邸や郷土資料の活用



旧ヤマシメ福井邸を拠点とし、歴史的価値を有する建造物の適正な保存と活用により地域の活性化を図ることを目的として積丹町「丹町美国鯨場遊歩道」「やん集小道づくり」推進協議会（成田静宏会長、会員150人）が平成20年10月28日に設立しました。平成21年度には、旧ヤマシメ

福井邸を利用してのイベントや屋根の改修などが行われ、地域が一体となり町内に点在する歴



史資源を結び、観光資源としての活用を図ることを目指した積極的な活動が行われています。

また、町では、今年度から、道の緊急雇用創出事業の助成を受け臨時職員2人を採用し、総合文化センターなどに保管するたくさんの方の文化財や郷土資料の整理を行っており、資料の台帳整理による適正な保存や、展示などの活用に向けて作業が小樽市総合博物館などの専門機関の協力を受けながら進められます。

駒木准教授は「今回の調査が町内の人が古い建物に関心を持ち、活用の方法を考えるきっかけとなってくれたらうれしい。」と話します。

積丹町の歴史を観ることができ、鯨場当時から残る貴重な歴史的建造物をどのように保存し、どのような形で活用していくのか。

歴史的資源を残すことで積丹町の歩んだ歴史を後世に伝え、活用によりひとつの地域の活性化の原動力になることも考えられています。

他にもまだある!

美国地区以外の歴史的建造物

▼白方酒蔵(余別町)



▲日本伝統的な手法の「土蔵づくり」。土を何層にも塗り厚くするため、石蔵よりも手間がかかる。後志管内でも数少ない建築物。



▲中川邸(余別町)

規模の大きな住宅と石蔵を併設する。日本伝統的な建築方法により建築される。